

## 会 議 議 事 録

1 会議名	平成27年度 第1回 長岡市子ども・子育て会議
2 開催日時	平成27年7月13日（月曜日） 午後3時から午後5時まで
3 開催場所	さいわいプラザ6階 大会議室
4 出席者名	<p>(委員)</p> <p>高野礼子委員長、兒玉優子副委員長、西山宗彦委員、 桃生鎮雄委員、木村慶太委員、河野瑞枝委員、 馬場裕子委員、佐々木信和委員、成田涼委員、田中琴恵委員、 小島直生子委員、横澤勝之委員、金山由美子委員、 高野真規委員、高山ゆかり委員、榎園早苗委員</p> <p>(アドバイザー)</p> <p>平野順子氏</p> <p>(事務局)</p> <p>子育て支援部：若月和浩 政策企画課：林智和 市民活動推進課：曾田望、堀川雄一郎 福祉総務課：江田綾子 福祉課：倉地真 商業振興課：近藤芳博 学校教育課：山岸力 保育課：大野宏、中山玄、大竹美加、池澤博文、佐藤陽子 子ども家庭課：波多文子、梅沢一茂、小林桃子、五十嵐涼子、 小林恵美子、木村圭介、中嶋雅子、鷺頭和也、 古泉朝子、小黒駿也</p>
5 欠席者名	関谷祐二委員、高津徹委員、上杉美穂委員、深見太郎委員
6 議題	<p>(1)平成27年度新規の子育て支援関連事業について</p> <p>(2)子ども・子育てワーキング部会について</p> <p>(3)長岡市青少年健全育成総合対策実施計画について</p> <p>(4)アドバイザーからのまとめ</p>

7 会議結果の概要	<p>(1)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局が資料No.1、資料No.1-1～1-8に基づいて説明した。</li> <li>・各委員が意見や感想を述べた</li> </ul> <p>(2)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局が資料No.2～5に基づいて説明した。</li> <li>・ワーキング部会参加委員が意見や感想などを述べた。</li> </ul> <p>(3)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局が資料「平成27年度長岡市青少年健全育成総合対策実施計画(案)」に基づいて説明した。</li> </ul> <p>(4)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アドバイザーが会議のまとめをした。</li> </ul>
-----------	---

8 会議内容

<p>(1) あいさつ</p> <p>(2) 議事 (1) 平成27年度新規の子育て支援関連事業について 資料No.1、資料No.1-1～1-8に基づき説明</p> <p>&lt;議事(1)についての質問・御意見・御感想&gt;</p> <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業向け出前講座の実施について、6月に2社やったと御報告いただいたが、差し支えなければどのような企業だったのかをお聞かせいただきたい。</li> </ul> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 声掛けさせていただいたのは、昨年度の子ども・子育て会議のワーキングに参加いただいた企業に声掛けさせていただいた。6月に朝日酒造と北越銀行の従業員組合の2箇所を実施。12月、2月はまだ時期は前後あるかもしれないが、長岡こども福祉カレッジ、長岡医療介護専門学校の保育士、幼稚園教諭になる課程に所属している生徒と従業員に向けた講座を予定している。</li> </ul> <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子育て応援券の配付について、私の手元にも届いて非常にありがたい。せっかくなので、そういったタイミングでアンケートをとったり、何かできたら、市として得られるものがあり、お互いに良かったのではないかと。今後、こういったものがあるときには、御検討いただくと良いのではないかと。</li> </ul> <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子育て応援券については、いただいた方の反応を御質問しようと思っていた。いただくのも良いが、今後こういう機会にアンケートをとることも一つの方法かと思う。</li> </ul> <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子育ての応援ということで、色々な事業に携わらせてもらっている。今日もちびっこ広場で、午前中「ままのまカフェ」をやらせていただいた。</li> </ul>
--

昨年までは、子育ての駅に来て、御自分のお子さんと遊んで帰るといことが多く見受けられたが、来られた方に私どもが声掛けし、お母さん方が他のお母さんとお話しをしたり、悩みがあっても他のお母さん方の意見を聞きながら、方向を見出す様子が見られる。

今年は、「ままのまカフェ」に栄養士や助産師が入っていて、ちびっこ広場でいえば昨年までは12組くらいの参加だったが、6月に入ってから、私どもが声掛けする前に皆さんその時間に集まってくださっている。栄養士、助産師に直接相談をしている方が増えている。なかには、私どもがいないときにおばあちゃんが母推と同じような感じで、関わってくださる方がいたりして、とても良い雰囲気になってきたと思っている。

お母さん方が私達の援助を受けるということだけでなく、人とつながりを持ったり、地域のサークルが希薄になるなかでそういうものにつなげたりなど、そういった所でも力を発揮させていただけるのではないかと思っている。

また、「ままりら」について、色んな問題を抱えた方の相談があるが、お母さん方がリラックスして帰られ、喜んでいる姿を見て、これができて本当に良かったなというふうに思っている。

(委員)

- ・ 「あぜりあ」について感じたことを質問させてください。以前からあぜりあが好きで、手にとる機会があるときは持ち帰って読んでいる。しかし、普通に生活しているなかでは、あぜりあを手にすることがなく、市民センターに用事があり、ウィルナがおかの近くを通ったので持って帰ってきた。

子育ての駅ぐんぐんで働かせてもらっているなかで、子育ての駅ぐんぐんに置いてあり良かった。新しい情報が多いなかで、2015年3月という日付で、中身をよく見ないで、ちょっと古いからと避けてしまうには凄くもったいない内容だった。子育てをしている母と話したり、自分自身もそうだが、女性が生きていく、子育てをしていく、非常に子どものときから自己選択、自己決定の繰り返しが常につきまとい、責任の重さも感じながらいく、子育ての負担感、不安感が今の母が抱えるつらさだったりしている。そういったことを、産後ケアハウスや、ままのまカフェでケアをしていると思う。

この「あぜりあ」の内容も子育てというキーワードは表立ってないが、一人の人間として生きていくための自分らしく生きるというキーワードであったり、自分で選択して、自分で決定する生き方だったり書いてある。皆さんが手にとり、これがひとつの考えるきっかけになったり、自分の人生の見直しになったりするのではないかと思う。私はこのあぜりあはずっととっておきたい内容だと思う。

この「あぜりあ」を広く周知していくにあたって、具体的に周知の方法があるのであれば、教えていただきたい。また、例えばあぜりあを、企業向け出前講座に持っていったり、ままのまカフェ開催のときにも、傍らに置いておき、良かったら手渡すなど、配付する機会はたくさんあると思うので、具体的な周知方法があったら

教えていただきたい。

(事務局)

- ・ 「あぜりあ」については、市民の方と協働で制作している。1年がかりで編集し、今年度の発行が年度末の3月となってしまった。その分、1年間じっくりと取材などをしながら、良いものを作っていきたいということで、毎年好評をいただいているところである。

今年度の配付については、毎年8000部作っており、市内の子育て支援施設、保育園などに配付しているが、県が行っている働きやすい職場環境を整えるというハッピーパートナー企業という認定制度があり、そういったところの企業にも配付し、学校などにも配付をしている。今年度は、配付をした高等学校から、進路などの話で参考にさせていただきたいということで、300人分いただけないかというような問い合わせがあったりと、反響がそれなりにあった。委員の方から講座などでもというご意見もいただきましたので、配付、使用していけるように検討していきたいと思っている。

### (3) 議事 (2) 子ども・子育てワーキング部会について

資料No.2～5に基づき説明

<議事(2)についてワーキング部会参加委員の御意見・御感想>

(委員)

- ・ バランスがすごく大事だと感じている。問題を解決しようと思いき、こちらが良かれと思ってしたことでも、当事者はそれを求めていなかったというような結果になるのが一番怖いと思う。

特にワーキング部会は、これから始めていくことを利用者目線で考えていくのであれば、もっとバランスのよいメンバーが必要なのではないか。

ワーキング部会でも、運営側のメンバーが多く、実際児童クラブを利用しているのは私1人だった。長岡市全体の働きながら育児をしている母親達が、どうやったら仕事と育児を両立できるかを考えて取り組んでいきたいので、私だけでなく他の利用者の意見も取り入れていただけたらと思う。

(委員)

- ・ ワーキング部会に参加し、今一番早急に取り組みが必要なのは、やはり児童クラブの時間延長だと感じた。

保護者が安心して働ける環境づくりと、子どもたちが放課後を安全・安心に過ごせる所が児童クラブであると同時に、保護者のニーズも多様化しているので、そのことを改めて痛感した。

児童クラブに預ける側の親と預けられる側の子どもに、意思のすれ違いや、親子の時間が不足しているのか、子どものSOSが親に伝わっていないということがあられるのも現状の一つ。これらを踏まえて、職員、保護者、子どもが一体となって活動ができるような児童クラブの時間延長を、しっかり考えていかなければいけないと

感じた。

また、今年度から、放課後発達支援コーディネーターの先生が配置され、私たち児童厚生員もいろいろな相談をさせてもらえてありがたい。

(委員)

- ・ 2回ワーキングが終了したが、子育てをキーワードに、職種、立場の異なる方々と話でき、とても意義深いと感じている。

最初は事業メニューのあらいだしをして、ひとつひとつ検討していくと、自分が気づけなかった視点での意見が出たり、同じ視点だと嬉しくなったりもした。

いろんな立場で子育てを語り合える事は本当に素晴らしいことだと感じた。

5年後、10年後の子育て支援を考えた時、語る、語り継ぐということが、行政にもそれに関わる支援者にも大切なのではないかと思う。

保育の現場でも、こういう理由でこうなったんだよ。というプロセスを忘れて、今のことだけを考えて保育をしているような感じを受ける時がある。それをきちんと知らせながら保育をしていくことが大事だと思う。

今の子育て世代を見ていると、母親たちが大変なのはわかるが、あれをしてほしいなど要求ばかりがふくらんできているように思う。

子育てが先へ、先へ、安全に、安全にというように流れてないかとちょっと懸念するときもある。

最初からうまくいかないのが当たり前、子どもはダダをこねるのが当たり前、親も子も失敗しながら、本当の意味でのゆとりが持てるようになってほしい。

支援者は親と一緒に考え、答えを出すのではなく、気づかせ、背中を押してあげることが、支援者として大切なことだと思う。それと同時に、支援者同士の繋がりも大事にしていきたいと考え、子育てコンシェルジュの活動として保育園併設の支援センターへの訪問もしている。

最後に、ワーキングのなかで出たことだが、親がわが子をかわいいという無償の愛、気持ち、絆、それが根底にあること、その気持ちを育むことが、なによりも大事ではないか。

(委員)

- ・ 自分が育休中に支援センターにお世話になっていた2年前と比べると、子育てコンシェルジュの設置など、相談にのってもらいやすい環境にあり、支援内容が充実していると感じた。

そのなかで、イベントは行くきっかけになり、親同士の関係づくりができありがたいが、全てお膳立てされたものだと、育児を自分で考える力、自己決定や自己選択がもてない内容になってしまったと感じた。情報が多くあるなかで、情報選択を自信をもってできる人は少ない。自己肯定感があまりない親が多いなかで、自分の子育てという根っこづくりをしていくことが、ポイントになっているのではないか。

長岡の子育て環境は充実している。長岡の特性を活かした支援センターの新メニューや、長岡の人が参加しやすいメニューを今後のワーキングで提案していきたい。

(4) 議事 (3) 長岡市青少年健全育成総合対策実施計画について

資料「平成27年度長岡市青少年健全育成総合対策実施計画(案)」に基づき説明

(5) 全体を通じた質問・ご意見・ご感想

(委員)

- ・ これまでの取組、ワーキングも素晴らしく、着実に成果がでていていると思っている。  
実は先日、小学生と中学生が子育てを学ぶ授業があった。そのなかで、子どもたちが調べていくと、少子化の問題や子育ては大変だということにいく。しかし、子育てっていいな、子どもを産んで良かったなと、子どもを育てられて良かったなということが非常に大事。そこを発信していくことが大人の責任ではないか。

(6) 議事 (4) アドバイザーからのまとめ

今年度4月より、子ども子育て新制度が始まった事に関連して新しい事業が立ち上がったたり、ワーキング部会も長岡市の特徴であり、ますます充実してきたと感じている。

・ 子育て家庭への支援の充実

産前産後の母親への支援、全国初の取り組みとなる産後のケアなど。長岡では近くに実家がある家庭が多かったり、同居率も高いが、産後のケア・子育て相談・子育てサポートなどはやはり必要であり、ニーズが高い。

子育ては、家族の人数が多い程やりやすいなどというはんちゅうをこえて、社会化していかなければならない一大事業のようなものになってきたと痛感している。

同居率を上げれば子どもが増えるという声もあるが、それでは解決にならず、それぞれの悩みや苦勞があり、家族が多様化し、ニーズも多様化していく中で、それに幅広く対応するのは大変だが、どう答えていくのかという大きな一歩が進んできたという話を聞いて感じた。

支援センターの役割や、遊びに来たり相談に来る母親などに対しての支援策が整っていて、長岡はよくできた自治体だと思う。そこに来て悩みを解決していった母親たちが、さらに他の母親の何らかの力になっていくような支援も大事になってくると思う。

支援センターなどで、利用者が企画をして何かをしたり、こういう話を聞きたい、こんな事がしたいなど、そういった声が聞ければ利用者目線で使いやすいセンターになっていくと思う。

特に1人目の子など、経験して初めてわかることが多いのが子育てだが、その方の立場にたち、寄り添ってくれる人の存在がすごく大事。アドバイスをくれたり、自分1人でやってるんじゃないんだと思わせてくれたり、コンシェルジュのような人たちに専門的な悩みを聞いてもらいながら、寄り添ってもらいながら子育てができるという体制になってきていると感じた。

・企業向けの出前子育て講座

働く父母のネットワークづくりに有効。子育てについて個々ががんばっていることや、悩みや情報の共有などできるネットワークはとても大事であり、そういったことにつながっていくような、単発的ではなく継続的にできると、働く父母の力になり生活の支えになるのではないかと。

新規事業が新しい子育て制度の中で生かされていると感じた。保育や幼児教育の質の向上や、地域にあった子育て家庭への支援の充実が大事。長岡市ではたくさんの意義のある子育て支援があり量は充実しているが、従事している人たちの勉強会や必要な情報の共有、話し合いの場をもつなどの質の向上が必要になってくる。

(7) 閉会あいさつ

(出席委員の署名欄)

上記会議議事録は、その記載内容が事実と相違ないことを確認し、ここに署名をする。

長岡市子ども・子育て会議 委員長

㊞